

■書 ■籍 ■紹 ■介

医者が大学を辞めるとき

小鷹 昌明 著

B6判 220頁 定価1,890円(本体1,800円+税)

中外医学社 2012年6月 ISBN978-4-498-10902-5

大学病院で神経内科医としてのキャリアを重ねながら、「今、医療者は何を考え、どうすべきか!」を信条として現場から医療状況を発信し続けてきた著者のエッセイ集第3弾。前作『医者続けるということ』の刊行から1年余り、この間にわが国を見舞った3.11東日本大震災と今もなお終息の糸口すら見えない原発事故を契機に、考える医師は何を思い、どんな決断をくだしたか、そして命とは、生きて死ぬとはどう

いうことなのかをあらためて考える。

著者は大学病院に19年間勤務の後、2012年に退職、現在、福島県の南相馬市立総合病院に勤務する。

〈主な目次〉

- 第一章 医療現場で考えたこと
- 第二章 大学で考えたこと
- 第三章 人生で考えたこと
- 第四章 生活で考えたこと

